

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(10歳未満の女児及び50歳代の男性)あり、血清型・毒素型はO157(VT1・VT2)及びO157(VT2)です。推定感染経路は、接触感染及び不明です。本年の累積報告数は27例になっています。
- 後天性免疫不全症候群の報告が、平成24年7月から9月末までに4例(AIDS患者1例, HIV感染者3例)あり、すべて男性(20歳代2例, 60歳代及び70歳代各1例)です。本年の累積報告数は、AIDS患者2例, HIV感染者4例であり、推定感染経路は、性行為感染が4例, 不明が2例となっています。
- 水痘の定点当たり報告数は1.10(45例)で、2週連続で増加しています。年齢群別では、1歳が12例(26.7%)と最も多く、次いで2歳が10例(22.2%)で、1歳～4歳が71.1%を占めています。例年、年末に向かって報告数が増加しますので、今後の動向にご注意ください。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.83(34例)です。先週(0.59, 24例)に比べ増加しており、過去5年平均値を大きく上回る状態で推移していますので、今後の動向にご注意ください。
- インフルエンザの定点当たり報告数は0.07(5例)です。今シーズン(第36週以降)に入ってから前週までは、0.00～0.01(0～1例)で推移していました。一方、全国の定点当たり報告数は0.31で、第43週以降、6週連続で増加しています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は16.37(671例)で、8週連続で増加するとともに過去5年平均値の冬期のピークを大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 418例(肺結核 173例, その他結核 89例, 潜在性結核感染者 156例)うち喀痰塗抹陽性 86例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 27例】
- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 13例】
- 五類:梅毒(早期顕症・I期) 1例【1月以降の累積報告数 8例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	16.37	671
	② 水痘	1.10	45
	③ RSウイルス感染症	0.83	34
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	30
	⑤ 突発性発しん	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	1.20	12

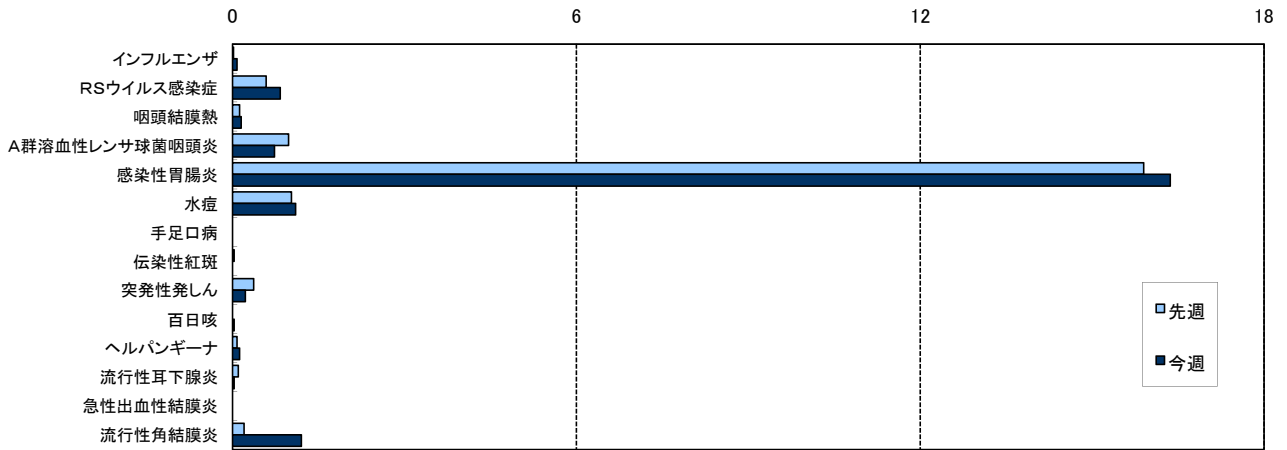
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注)京都市のデータは、平成24年12月6日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

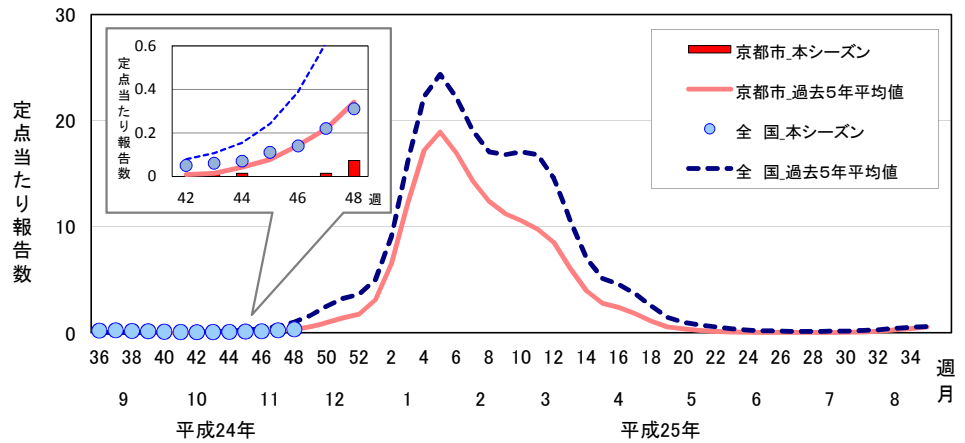
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第48週)と先週(第47週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

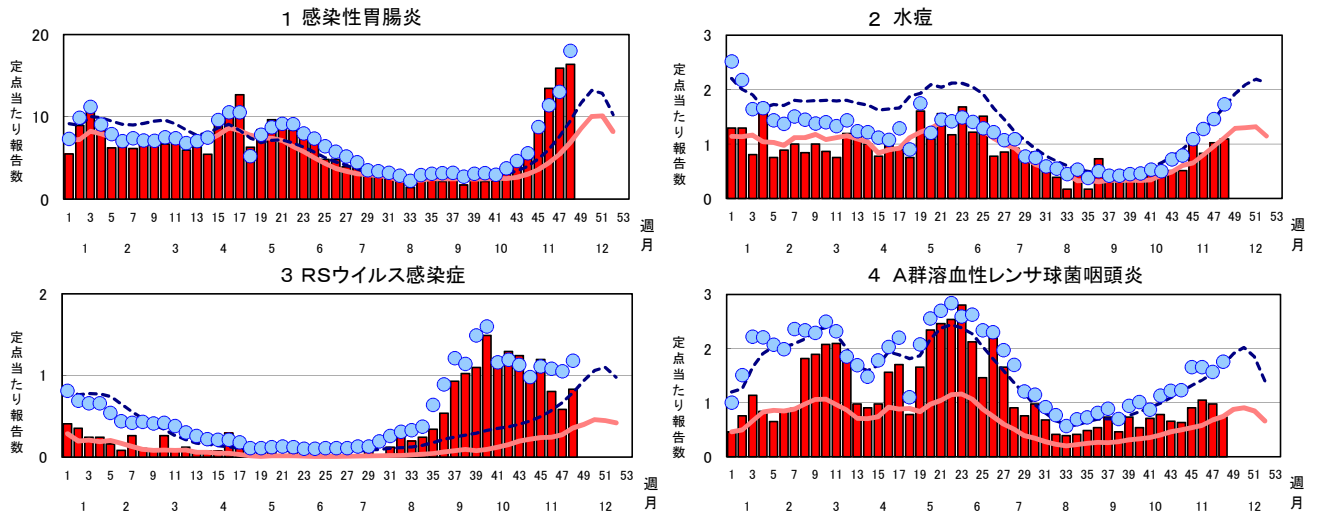
週	報告数(例)
第44週	1
第45週	0
第46週	0
第47週	1
第48週	5
累積報告数 (第36週以降)	9



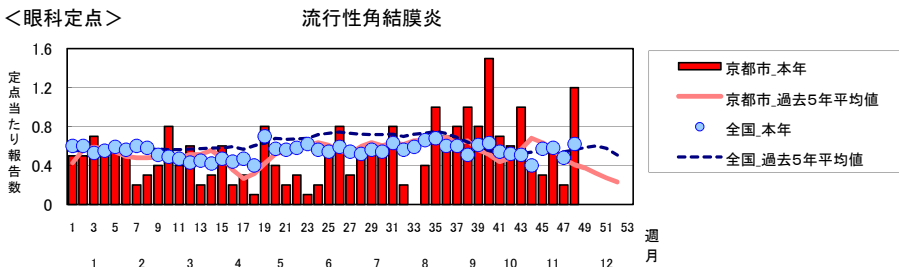
※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第48週(11月26日～12月2日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は16.37(671例)で、8週連続で増加するとともに過去5年平均値の冬期のピークを大きく上回っています。今後の動向にご注意ください。

都道府県別では、近畿6府県では減少、もしくは僅かな上昇となっているのに対し、他の地域では、前週減少していた4県を含むすべての都道府県で大きく増加しています。

年齢群別にみると、各年齢層から報告がありますが、1歳が109例(16.2%)で、最も多くなっています。

京都市衛生環境研究所では、病原体定点において11月以降に採取された感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスG Iを1件、ノロウイルスG IIを24件検出しています。また、10月以降に搬入された7事例の集団感染の検体から、ノロウイルスを検出しています。

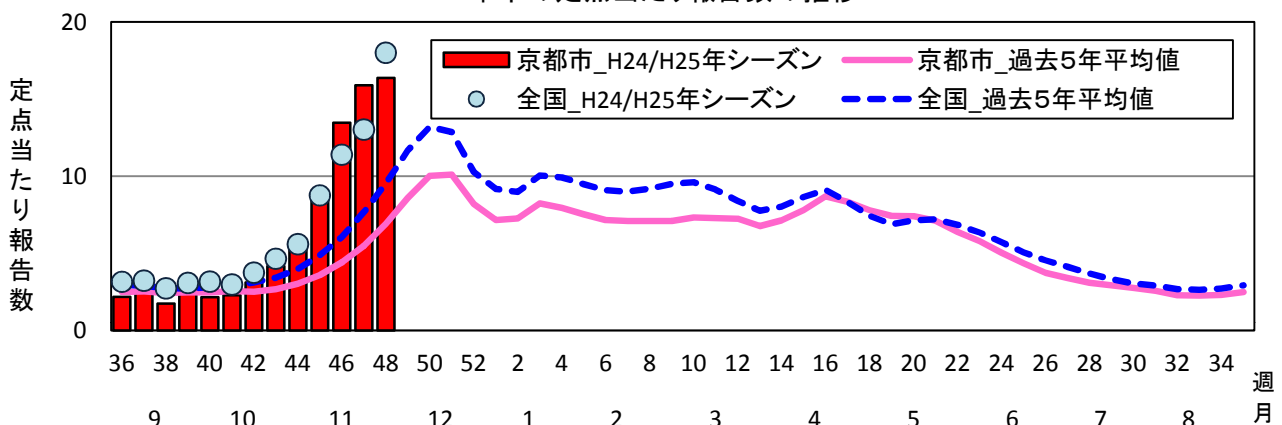
また、本年10月以降、新しいノロウイルスG II 変異株(G II/4 2012変異株、仮称)が各地で確認されるようになり、急速に活動を活性化させています。今シーズンはこの変異株が主流になると予想されており、今後の動向に注意が必要です(国立感染症研究所発行:病原微生物検出情報(IASR)「<速報>ノロウイルスG II/4の新しい変異株の遺伝子解析と全国における検出状況」による)。詳しくは以下のホームページをご参照ください。

○国立感染症研究所病原微生物検出情報(IASR)ホームページ

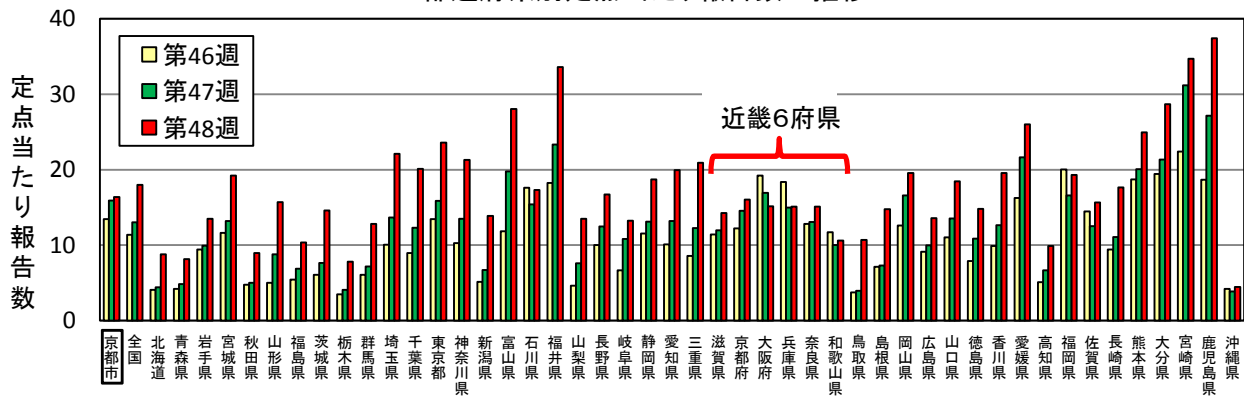
「<速報>ノロウイルスG II/4の新しい変異株の遺伝子解析と全国における検出状況」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/norovirus-m/norovirus-iasrs/2957-pr3942.html>

本市の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢群別報告数の推移

